

## 如月(February)の校長 益田高校同窓会「いわみの会」入会式 (R5.2.28)

卒業式前日の2月28日、本校体育館にて益田高校同窓会「いわみの会」入会式が挙行されました。「いわみの会」から村木繁同窓会長、市原浩副会長、久城恵治副会長が、そして、校長をはじめとする校内全教員のうち三分の一以上にもなる16名の益田高校校内同窓教員が参列し、厳かに催されました。

まずもって、3年生の皆さん、「いわみの会」へのご入会おめでとうございます。

本校は、昨年度創立110周年を迎え、この度普通科98名、理数科32名の合計130名が普通科が第70期、理数科が第51期として入会し、卒業生総数は19,390名となりました。これまで同窓会会員の方々は、この益田はもとより県内外、国内外と、全世界のあらゆる地域において、多岐に渡って様々な分野でご活躍されておられます。

さて、入会生の皆さん、いよいよこの益田高校の学び舎から巣立ち、4月からはそれぞれが新しい環境に身をおいて生活することになります。まだ多くの入会生は、大学の合格発表前ではありますが、新生活を前にして期待や不安が入り交じった状況にあると思います。これまでの18年間は、家族に、あるいは地域の方々や先生方に守られ、支えられて過ごしてきました。そして何よりも、共にこの学び舎で過ごした同級生の存在は、かなり大きかったはずで、高校3年間、時間を共有してきた「同級生との縁(えにし)」は一生ものです。このかけがえのない友は、間違いなく今後とも一生繋がっていく大切な存在になると思います。

しかし、今後社会に出ると、もっともっと広い範囲での人間関係の構築も重要になってきます。特に、壁にぶち当たった時、悩み苦しんでいる時、相談したい事がある時に、頼りになるのがこの度入会された同窓会の存在です。地元だけでなく全国各地におられる同窓会の先輩方が、必ずや力になってくださいます。決して一人で悩まずに、遠慮なく頼るべきです。それだけ高校の同窓の絆は深く、とても心強い、本当にありがたいものです。そして何年か後には、逆に、経験値を重ねた本日の入会生が、困っている後輩達の力になってやる、そんな繋がりこそが、本会の最も意義深いところだと思います。

ちなみに私の卒業期は、今年還暦の節目を迎えたこともあり、各クラスの代表幹事が集結し「還暦同窓会実行委員会」を立ち上げ、今年10月に期全体での実施の予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響からやむなく延期することとなり、現在は今年8月に改めて「益田高校昭和56年卒業生(普通科第28期、理数科第9期)還暦同窓会」を再計画し、久々の同級生との再会を楽しみに準備をしているところであります。

それでは、「いわみの会」普通科第70期、理数科第51期の後輩諸君！！

同級生、同窓生の絆・縁(えにし)を大切に、頼り、頼られながら、豊かな人生を歩んでくれることを心より期待しています。